

就実大学・就実短期大学 2023年度入試結果について

2023/06/15 苺米 一志（入試改革担当 副学長）

全国的な傾向


1. 国公立大学の志願者数42万3148人、対前年度指数99.0
合格者数9万8555人、指数83.0、実質倍率4.3
※合格者の対前年度指数の最高は前期で「芸術・スポーツ科学」が96.0、後期で生活科学が98.0、最低は前期で薬学が60.0、後期で医学が64.0（100を上回るものは無い）
2. 私立大学の志願者数293万7947人、指数96.0
合格者数103万1284人、指数98.0、実質倍率2.8
※指数100を上回るのは、理・工・歯・「総合・情報・人間・環境」のみ。他は95.0程度を平均とするが、特に生活科学は志願者指数80.0、合格者指数84.0と低下が顕著

☆18歳人口の対前年度指数は97.8なので、志願者数自体は増加 = 一人の受験生の受験校が従来より多数に及ぶことは考えづらいので、進学率の上昇と考えられる ← 家庭・高校における生涯設計をにらんだ進学への推奨、奨学金制度の充実などの要因

= 進学率の微増は続き、数年間は志願者数の大幅な減少、競争率の低下などは頭打ちとなると予測されるが、その後には本格的な競争が訪れる

一般選抜の退潮傾向

1. 「総合型+学校推薦型」の志願者数31万4740人、対前年度指数104.1。総合型選抜の志願者数5万5601人、指数113.3、学校推薦型選抜の志願者数25万4197人、指数102.2
2. 「総合型+学校推薦型」の志願者が前年より増えた大学の割合は、2021年度33.2% → 2022年度50.0% → 2023年度53.0%と上昇
3. 私立大学一般選抜（共通テスト利用方式を含む）の志願者数の対前年度指数（2023年3月3日現在）は97.3



本学の入試結果 1 (2023/03/31現在)

人文科学部

表現文化学科 入学者 96名 (募集人員 80名)

実践英語学科 82名 (75名)

総合歴史学科 87名 (80名)

教育学部

初等教育学科 94名 (75名)

教育心理学科 73名 (62名)



本学の入試結果 2 (2023/03/31現在)

経営学部

経営学科 入学者 167名 (募集人員 160名)

薬学部

薬学科 80名 (100名) △

短期大学

幼児教育学科 65名 (100名) △

生活実践学科 61名 (80名) △

年内入試と一般選抜の比率 1 (実入学者数比)

人文科学部

表現文化学科 年内／一般 = 0.68

実践英語学科 0.54

総合歴史学科 0.7

教育学部

初等教育学科 0.72

教育心理学科 1.84

※共通テスト利用を除く (以下同)

年内入試と一般選抜の比率 2 (実入学者数比)

経営学部

経営学科 年内／一般 = 2.2

薬学部

薬学科 0.85

短期大学

幼児教育学科 1.67

生活実践学科 1.33

本学全体の傾向

- 1 実務・資格系の学部・学科は強い印象
- 2 一方で、他学との競争の激しい学部・学科は、実務・資格系であっても厳しい状況
- 3 したがって、本学独自の教育のアピールにより、差別化をはかることがこれまでよりも必要
- 4 入試区分では、全国的傾向と同様に一般選抜の比重が減り、年内入試（推薦など）での合格の比重が増えている
- 5 各入試区分の人数枠の見直し、年内合格者への学修の支援など高等学校との連携などが必要

その他、諸情報 1

1. 岡山大学2023年度一般選抜入試結果の抜粋（同学発表）

教育学部 志願者352／募集人員148 = 志願倍率2.37倍
受験者286／合格者172 = 実質倍率1.66倍

経済学部 志願者360／募集人員158 = 志願倍率2.27倍
受験者308／合格者178 = 実質倍率1.73倍

※特に教育学部と経済学部で実質受験者数の減少が顕著（その他はほとんど目立った減少がない）

教育学部と経済学部における実質受験者数の顕著な減少

- ← 共通テストの結果により、志望校を別の（上位の）国公立に変更したか、年内入試により、さらにブランド力の高い私立に合格していたか
- = 競争性と流動性の高い分野であり、受験者の「売り手」市場。年内入試も、「最後まで待つて決める」も有効。本学への影響はすでに教育学部に現れ、やがて経営学部にも現れることが予測可能。ここでも差別化の必要性

その他、諸情報 2

2. 新設学部の動向（西日本）

（1）国際・グローバル系学部の新設

大阪経済大学、関西外国語大学、大和大学、甲南大学、宝塚医療大学、ノートルダム清心女子大学

（2）情報・データサイエンス系学部の新設

ノートルダム清心女子大学、高知工科大学、周南公立大学、下関市立大学、熊本大学

※「海外留学のしやすさ」「現代社会への対応」のアピールの必要性。本学は「数理・データサイエンス」副専攻制を導入